

赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行／日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 一部20円

2

Feb 2010

Vol.837 http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ハイチ大地震

南北アメリカ史上最大の被害

世界中の赤十字が結束

緊急支援

近衛会長も被災地へ

建物のほとんどが崩壊し、瓦れきと化した町のいたる所に避難民があふれている。1月12日午後5時5分、カリブ海に浮かぶハイチを襲ったマグニチュード7.0の大地震は、死者・行方不明者10数万人から20万人と推計される大被害をもたらしました。

この緊急事態に、国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)は、105億円相当の支援を表明しました。連盟の近衛忠輝会長(日赤社長)が19日に被災地の首都ポルトープランスに入り被災状況を視察。25力国から400人以上の赤十字職員やボランティアが参集し、救出、医療、給水、救援物資配付などの支援に取り組んでいます。

視察から24日に帰国した近衛社長は、「各国からの救援物資が空港に山積みになっているのに、その先の運搬体制が整わず、必要なものが被災者に届きにくくなっています」と被災地の状況を報告。そうした中で赤十字活動について、「ハイチ赤十字ボランティアは、自らも被災者であるのに率先して救援に従事しています。彼らこそ赤十字の誇りです。連盟は30万人の被災者を対象にした3カ年の支援計画を作成中です。少しでも早い復興に向け全力で取り組みます」と決意を語りました。

日赤は医療チームを派遣

日赤は地震発生当日の13日に被害状況を把握し、必要な支援を調査する職員を派遣。25日までに近衛社長を含めて19人を現地へ送ったほか、当面の支援として即座に2000万円を拠出しました。17日に日本を出発した日赤医療チームの8人は19日に被災地に到着し、各国赤十字社とともに活動。24日には追加で6人を派遣しました。

日赤の医療チームは、浄水機や発電機、テント、食料などの資機材を備え、最大で4カ月間にわたり外部からの支援なしで医療活動が続けられる基礎保健緊急対応ユニットとして活動しています。被災直後は外科系疾患への対応が主でしたが、今後は感染症対策、母子保健、地域保健などの活動も視野に支援を展開していきます。



©IFRC/ERIC Quintero

右: 傷の処置をする岡村直樹医師(熊本赤十字病院)

(3面に関連記事)

「ありがたいの思いで命を救おう」

18歳 石川遼選手が同世代にアピール



はたちの献血キャンペーン
主催: 厚生労働省・都道府県・日本赤十字社

「はたちの献血」キャンペーンが今年も1月1日から2月28日まで全国で展開されています。

今年の広報キャラクターは、プロゴルファー石川遼選手です。石川選手は1月25日に都内で開かれた記者発表会(写真)で、同じ世代の若い人たちに、献血への協力を力強く呼びかけました。

「数え切れない程の人に僕は支えられている。ありがたい！」

石川選手は2月末まで放送されるキャンペーンのテレビCMで、大きな声で献血の大切さを訴えています。記者発表会でも、この「ありがたい」を報道陣の前でさわやかに披露しました。

また、シンガーソングライターのMetisさんがキャンペーンCM曲「キミに出会えてよかった」を熱唱。メテイスさんは、病院で輸血を必要としている患者に直接会

い、曲作りに生かしたそうです。そして、昨年10月からスタートしている献血推進活動「LOVE in Action」プロジェクトリーダーのDJの山本シュウさんも登壇しました。

「はたちの献血」は1997年から毎年、若い世代に献血への協力を呼びかけるために実施されています。また、冬季は献血者が減少する傾向にあり、国民に広く献血への理解を深めてもらうことも目的です。

若い人たちの協力

「はたちの献血」は1997年から毎年、若い世代に献血への協力を呼びかけるために実施されています。また、冬季は献血者が減少する傾向にあり、国民に広く献血への理解を深めてもらうことも目的です。

ただ、若い世代の献血者数は年を追うごとに減少し、10代・20代の献血者は10年前の45%に落ちているのが現状です。献血された血液の85%は50歳以上の人が使っています。日本は今後、少子高齢化社会がさらに進むことは確実

です。石川選手は記者発表会の最後に、同世代にこう呼びかけました。「若い世代の献血者数は右肩下がりで。このままじゃいけないと思います。献血は血を抜いて終わりというわけではありません。何十年、何百年先も私たちが生きていくためにも献血は必要です」(関連記事4~5面)

場。山本さんはCM撮影で石川選手と共演しており、記者発表会でも2人はトークを重ねました。

石川選手は以前、献血について「血をたくさん抜かれるから少し怖い」という印象を持っていたそうです。しかし、広報キャラクターを務めるにあたって勉強をした結果、イメージは大きく変わったと言います。

「40分間献血に協力するだけで、助かる命があることを知りました。僕と同じ世代の人も、このことを知れば献血について深く考えてくれると思います」

あの日を忘れない

阪神・淡路大震災から15年

日赤も参加し被災地でイベント

阪神・淡路大震災から15年を迎えた1月17日、兵庫県内では震災被害を若い世代に伝え、次の災害に備える「ひょうご安全の日」が各地で行われました。

ひょうご安全の日推進県民会議主催の追悼式典「1・17のつどい」には、皇太子ご夫妻、鳩山由紀夫首相も出席。

日本赤十字社からは山田史事業局長が参加し、犠牲者のために福を祈りました。

防災に生かされる震災の教訓

6434人が犠牲となった阪神・淡路大震災の教訓を生かし、この15年間で災害救護のさまざまな取り組みが実施されてきました。

兵庫県内では、神戸東部新都心（HAT神戸）に国内外の防災関連機関を集めた防災拠点（HAT神戸）が構築されています。



メモリアルウォークの参加者にあたたかい味噌汁

組みとして、災害時には、医療機関の受入体制の情報共有を図る広域

東海地震想定

災害救護訓練を実施

東海地震は今後30年以内に87%の確率で起こるとされています。これに備えるため、日本赤十字社は昨年12月10日と11日の両日、本社で予知型の東海地震を想定した災害救護訓練を行いました。

また防災訓練では、従来の救護所における医療救護訓練とともに、他機関との連携やDMATにおける災害発生直後の医療救護、ヘリによる広域搬送など、より実践的な訓練も実践されるようになってきました。

予知型の東海地震の想定訓練は昨年1月にも実施しています。今回は前回の教訓や課題を生かし、救護が本格化すると思われる発生2日目以降の対応に大きな力点が置かれました。

今回の想定は、静岡県の遠州灘を震源とするマグニチュード8.0の地震が発生し、同県内が最大震度7に見舞われ、大きな被害を受けたというものです。

訓練には、本社の職員や静岡支部のほか、全国のプロック代表支部や日赤サービスマンなども職員が参加しました。

本社職員らは、訓練当日により緊張感を持って、事前に自らの行動予定を何度も確認して臨みました。

シミュレーションで対応力強化

今回の訓練は約1週間の時間経過を3日間に凝縮して行われましたが、今回は現実に近い状況を作るために、実際の時間経過に合わせて進行。参加者たちは夜間も泊り込みました。

参加者は、被災地で活動する救護班の管理や、医師・看護師の派遣調整、血液や救護物資の輸送などについて、与えられる状況をシミュレーション方式で対応。各支部の職員の中には訓練に参加しつつ、支部単位で実施する訓練への参考にと写真や動画を撮影する光景も見られました。

また、訓練には国際赤十字から初めて広報担当者1人が参加。担当者は日赤が展開する救護の様子を海外メディアに正確に伝える役割を担っています。今回の訓練で両者の連携が深まりました。



今回の訓練について、実務を取り切った本社事務局の谷川保行・救護担当主幹は「前回の訓練と比べて、精度はさらに高まった」と総括。そのうえで、「今後は、現場から断続的に送られてくる情報を的確に判断し、措置する能力をもっと強化していきたい」と、次回の訓練に向けた抱負を述べていました。

第74回代議員会開催公告

平成22年3月19日（金）、午後1時から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」（東京都千代田区霞が関3丁目3番2号）において第74回代議員会を開催し、左記の事項を付議いたします。

平成22年2月1日

記

- 第1号議案 役員選出について
- 第2号議案 平成22年度事業計画について
- 第3号議案 平成22年度収支予算について

日本赤十字社

海外たすけあい義援金 6億8192万円集まる

紛争や災害で苦しむ人のために

平成21年度「NHK海外たすけあい」（平成21年12月1日から25日まで）で寄せられた義援金は、1月26日現在で、6億8192万円となりました。

1983年から始まった「海外たすけあい」キャンペーンへ日本の皆さまがお寄せ下さった義援金の総額が累計200億円を超えました。

なお、今回の義援金は、アフリカのウガンダ共和国で今年からスタートさせる母子保健事業などに活かされます。

ご協力ありがとうございました。

海外たすけあい

ウガンダに安全な出産を！

3年間で妊産婦6000人を支援

日本赤十字社は1月からウガンダ共和国北部のアチヨリ地域で、妊産婦6000人の安全な出産を支援する母子保健事業を、同国赤十字社とともにスタートさせました。

最貧国のウガンダの中でも特に北部のアチヨリ地域は、2008年までの20年に及ぶ政府軍と反政府勢力との紛争の影響で、医療保健サービスが大きな被害を受け、施設や人材、機材が絶対的に不足しています。

この地域の女性は1人当たり6・5人も子どもを出産しますが、近くに医療施設がないため妊産婦の多くは自宅で家族や伝統的な産婆の立ち会うなかで分娩。そのうえ、へその緒を草の葉を使って切断するケースもあって、妊産婦や新生児が破傷風に感染することがあります。

こうした結果、ウガンダの妊産婦死亡率は全国平均で出生10万件に対して435件と日本の70倍以上。ウガンダでの事前調査に参加した葛飾赤十字産院の内木美恵・看護副部長はこう指摘します。「出産直前や直後でも女性が働きに出るまうなど、社会や地域全体

ボランティア養成も

設がないため妊産婦の多くは自宅で家族や伝統的な産婆の立ち会うなかで分娩。そのうえ、へその緒を草の葉を使って切断するケースもあって、妊産婦や新生児が破傷風に感染することがあります。

こうした結果、ウガンダの妊産婦死亡率は全国平均で出生10万件に対して435件と日本の70倍以上。ウガンダでの事前調査に参加した葛飾赤十字産院の内木美恵・看護副部長はこう指摘します。「出産直前や直後でも女性が働きに出るまうなど、社会や地域全体

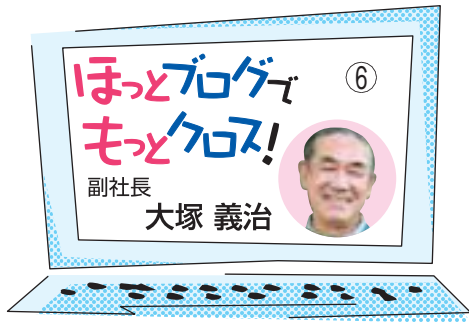


母子保健事業は、海外たすけあいの義援金を基に実施されます。日赤病院から看護師と助産師も派遣しました。

毎年2000人の妊産婦に安全な出産に最低限必要な資材一式を配るほか、安全な分娩を行うための知識や技術を身に付けたボランティア60人を養成。ボランティアは妊産婦の家庭を訪問し、配布した資材が有効に使われているかどうかを確認して回ります。

また、現地の人たちに安全な出産や母子保健の大切さを理解してもらい、安全な出産ができる環境が広がることを期待しています。

診療所で出産経験のある女性に聞き取り調査を行う内木看護副部長は「安全な出産や母子保健の大切さを理解してもらい、安全な出産ができる環境が広がることを期待しています」と話しています。



▼プロフィール
 昭和22年生まれ、栃木県出身。元厚生労働事務次官。平成17年から日本赤十字社副社長。趣味は読書で、自身の読書遍歴をまとめた「遊歩入夢 文庫の香り」(弓立社)の著書がある。

ちょっと気になる年賀状

新年に、多くの方々から年賀状をいただきました。ごぶさた続きの知人から消息が届いたり、同年代の友人の若々しい抱負に感心したり。恒例のこととはいえ、年の初めのお便りは嬉しいものです。

ただ、その中に、ちょっと気になる1通がありました。

「海外の大きな災害で被災された人々のために、友人たちと日赤に救援金を送りました。わずかな金額ですが、私たちの気持ちかどのように生きているのか、知りたいと思っています」

こんな一文が書き添えられていたのです。

届けられた救援金に関し、私たち日赤の責務は何かといえば、それを最も被災者のためになるよう有効に使うこと、しかもスピーディーに実行すること、がまず第一だと言えるでしょう。でも、それがすべてではありません。

実際にお金かどのように使われたか、その結果はどうだったかなどを、資金を提供いただいた方々にきちんとご報

告すること、それが同じくらい大切なことだと考えています。

海外救援金だけでなく、赤十字の他の事業の多くも善意の資金によって成り立っています。これらに関する報告は、私たちの御礼と感謝の気持ちを表すものでもありますが、それ以前に、貴重な浄財を託された者の当然の義務だと言わなければなりません。

そのためにパンフレットやリーフレットを作成してお送りしたり、報告会を開いたり、職員が出向いてご説明することもあります。また、資金を寄せて下さる方はたいへんな数に上りますから、赤十字のホームページでご覧いただけるようにもしています。

でも、「出来るだけ早く、なるだけ詳しく、より分かりやすい」ものにするには、まだまだ工夫や努力が必要だと痛感しています。ご提案やいいアイデアがありましたら、教えて下さいませんか。

この項へのご意見を歓迎します。メール・アドレスは、<otsukablog@jrc.or.jp>です。

ハイチ大地震 医療支援をもっと

関塚美穂看護師(名古屋第二赤十字病院)が報告



診療にあたる日赤医療チーム(1月20日)

日本赤十字社の医療チームは1月19日に首都ポルトープランスに入り、20日からハイチ赤十字社の庭で診療を始めました。25日から本格的にクリニックを立ち上げ、同日だけで84人の患者を診察しまし

た。この日の患者さんのうち、地震による外傷は1割程度。重症だったのは40歳くらいの女性で、地震で足を骨折して応急処置はしたものの悪化し、化膿した傷口を切除せざるを得ませんでした。負傷時に患部をきれいに洗っていな

かったことが原因と見られます。現地の衛生状況は極めて悪く、不衛生な水を飲んで下痢をした子どももいました。地震で病院や診療所が倒壊し、必要な医療を受け

ることができません。早く早くワクチンが届くことを願っています。私たちと治療にあ

た。高血圧の人は、炎天下で治療を受けずにいると、脳梗塞を起こしかねません。この患者さんには用意していた薬から、血圧を下げる効果があるものを処方しました。

日赤のクリニック開設を伝えるために近くのキャンプにも行きました。キャンプ内は手狭で人々が密集し、調理中の火が燃え移れば、大火災になると感じました。トイレはまったく不足しています。清潔な水を貯めるタンクも置いていきましたが、必要な量があるのかは分かりません。

日赤はハイチ大地震被害の救援金を受け付けています。振込口座は、郵便局・ゆうちょ銀行「口座番号00110-2-5606 日本赤十字社」。受付は2月12日まで。振替用紙の通信欄に「ハイチ地震」と明記してください。救援金は三菱東京UFJ銀行、日赤の各都道府県支部、ファミリーマート「Familyポート募金」、Yahoo!ポランティア「インターネット募金」でも受け付けています。詳しくは日赤ホームページ(<http://www.jrc.or.jp/>)をご覧ください。

日本赤十字社では事務職員を募集しています

仲間になりませんか!
 フィールドは無限大
 全国に 世界にはばたく

「赤十字の仕事」と聞くと、病院で働く医師や看護師のイメージですが、実はたくさんの事務職員も活躍中。日本赤十字社では、赤十字活動の未来を担うこうした事務職員を募集しています。人間のいのちと健康、尊厳を守るためにチャレンジしたい、そんな熱い情熱を持つ若い方の応募を待っています。

事務職員ってどんな仕事?

日赤が展開する国内災害救護や国際活動、血液事業、病院など9つの事業を支えるのが事務職の使命。その活躍のフィールドは人道にかかわるすべてに広がっています。

エントリーはネットから!

お問い合わせ先

詳細は、マイナビ2011 (<http://job.mynavi.jp/11/pc/NSToppage.do>) または日赤ホームページ (<http://www.jrc.or.jp/>) まで。

※本社および首都圏以外の採用試験については、各道府県支部へ直接お問い合わせください。



年末年始も災害に備えあり

バイク奉仕団が島 防災訓練で活躍

徳島県支部は12月13日、南海地震を想定した県主催の防災訓練にバイク奉仕団員2人を派遣しました。



訓練にはスクーターも参加

災害に強い無線 新会館で発信会

道内42の無線赤十字奉仕団でつくる北海道無線赤十字奉仕団協議会(安達弘之会長)は12月20日、北海道支部の赤十字会館竣工を記念し、無線技術の向上に努めています。



災害時の連絡はこれで万全

災害時の連絡はこれで万全。新赤十字会館内の新しい無線室に、札幌市無線赤十字奉仕団員を中心に15人が集まり、約2時間わたって道内の無線赤十字奉仕団と交信を重ねました。

大晦日や 元旦も待機

福井県内は12月31日早朝から元旦の深夜にかけて、悪天候に見舞われ、気象台から波浪警報と大雪・風雪・なだれ注意報などが相次いで発令されました。

福井県支部では住民が避難せざるを得ない事態を想定し、救援物資を搬送する用意

や、医師・看護師らによる救護班が出勤できるように準備を整えました。そのうえで、県内の全市町に対し、その旨をファックスで伝達。職員らは待機して状況を見守り続けました。

他機関と連携 緊迫した訓練

京都府支部は1月15日、同府警の警察学校と共同で、支部管内合同災害救護訓練を実施しました。医師や看護師、ボランティアなど災害時の医療救護活動に携わる人たちの役割や他機関との連携が主な目的でした。

参加者は冒頭、ハイチ大地震と発生から15年を迎えた阪神・淡路大震災の犠牲者に黙とう。訓練前の研修として、トリアージの方法や救護所に

運び込まれる負傷者に関する情報処理の進め方などを学びました。訓練本番には、警察学校から初任科生112人が参加しました。



本番さながらの訓練

心通わせた思い出作り



力を合わせて門松作り

餅つきと門松 作りで親睦

佐賀県支部は12月27日、県青年赤十字奉仕団員らによる毎年恒例の餅つきと門松作りを行い、親睦を深めました。

当日は、団員15人と青少年赤十字(JRC)の高校生25人が約30キロのお餅つきに挑戦。つきあげたお餅は、き

こや大根おろしをつけて食べました。餅つきの後に行われた門松作りでは、竹の切り出しから組立てまでの作業をみんなで分担。プロに引を取らない立派な出来栄に仕上がりました。団員や高校生たちは作業で心地よい汗をかきながら、楽しく交流の時間を過ごしていました。

指導者2人を受け入れられました。県支部側も毎年8月にJRCメンバーを同国に派遣しており、相互交流は今回で8回目。初めて行った谷本正憲支部長への表敬訪問では、メンバーの代表が「交流事業で学んだことを後輩に伝えたい」とあいさつしました。



再会を誓い合いました。

交流期間中、両国のメンバーは運動会やパーティーで親睦を深め、意見交換会ではお互いの赤十字活動や学校について学ぶ機会を得ました。また、マレーシアのメンバーは学校訪問で折り紙や茶道など日本文化を体験。最終日のパーティーでは、両国のメンバーが涙を流して別れを惜しみ、

オリックスのエ ースがチャリテ ィーサイン会

長野

長野県支部は12月26日、ながのの東急百貨店(長野市)でオリックスパファロースの金子千尋投手のチャリティーサイン会を開きました。金子投手は長野商業高校のサインボールに子どもたちは大喜び

日赤の歴史 伝える展覧会

熊本

熊本県支部創設120周年を記念した展覧会「知られざる日赤の歴史」は、熊本市から始まった。熊本市現代美術館で開かれています。



展覧会は、熊本で激戦を繰り広げた西南戦争に関する史料や、日本赤十字社の前身「博愛社」の設立請願書、明治期以降の広報資料などを展示。熊本が「赤十字発祥の地」といわれる由縁がよく理解できる内容になっています。また、東山魁夷や東郷青児など、日赤本社が所蔵する絵画55点も展示。画家たちの作品にこめられた赤十字への思いを知ることが出来ます。展覧会は2月14日まで。

学校を訪問してマレーシアについて紹介



12月24日のクリスマススイブ、成田赤十字病院に常夏の国シンガポールからサンタクロースがクリスマスプレゼントを持ってやってきました。成田空港に就航しているシンガポール航空の客室乗務員がサンタ役。病氣と闘っている子どもたちのベッドを回り、飛行機がデザインされた



「ソリでここに驚きながらも笑顔でプレゼントを受け取りました。そして、サンタさんに「ソリでここまで来たの?」「シンガポールのクリスマスは暖かい?」などと質問したり、握手をねだったりしていました。このイベントは今回で4回目。子どもたちにとって、とても温かいクリスマススイブとなりました。

献血推進に強い味方!

若手お笑い芸 阪 人が呼びかけ大

大阪府赤十字血液センター



は12月28日、京橋駅前でもとろりエイティブ・エージエンシーの若手お笑いコンビ「ファミリーレストラン」に協力を得て、献血への協力を呼びかけました。

「行く年来る年」キャンペーンの一環で、年末年始も輸血が必要な患者さんに血液を届けるために行われました。

この日は仕事納めの会社が多く、通行する人

「フットエステ」で協力者にお礼

宮崎 宮崎市にある献血ルーム

「フットエステ」は温かいタオルで足を温めて全体をリラックスさせたうえで、ふくらはぎや足の裏のつぼなどを押ししていきます。サービスを体験した方からは「とても気持ちがいい」「疲れが取れる感じ」と大好評。サービスの特典です。



「フットエステ」が疲れをいやす

心からの寄付に感謝

画伯の6作品を岡 福

大牟田市の故江崎マツ画伯の次女・江崎睦子さんから12月、画伯の6作品が福岡赤十字病院に寄贈されました。睦子さんには、寺坂禮治院長から感謝状が贈られました。



糟谷会長(中) 大塚学部長(右)

画伯は2004年度の第89回二科展絵画部特選を受賞して、睦子さんは「母の絵画を多くの方に見ていただきたい」と希望していました。作品は病棟に展示されています。

チャリティー部会 コンサートで 大窓 日同

日本大学歯学部同窓会から昨年11月13日、日本赤十字社に50万円の寄付が寄せられました。日赤は同12月17日、同窓会に金色有功章を授与しました。

ハイチ地震の 救済寄付

ハイチ大地震の被災者救済のために役立ててもらおう



ハイチに早く届きますように

クロスアクトひと

2月5日から公演が始まる宝塚歌劇団のミュージカル「ソルフェリーノの夜明け」で赤十字創始者アンリー・デュナンを演じる水夏希さん。「デュナンを演じることで自分自身の人間性を深めていきたい」と抱負を語ります。

「ロマンス的な展開がなく、華やかさも無縁。宝塚にしてはめずらしい舞台です(笑)。そうした作品だからこそ、目には見えないけれども、誰の心の中にもある人間愛を表現し、命の大切さや平和を伝えるきっかけとなる舞台にしていきたいと思っています」

1995年の阪神・淡路大震災の被災者支援活動で、デュナンは「人間愛や博愛の精神を言葉で語るのとは簡単ですが、偽善っぽく聞こえてしまつては駄目。大勢の負傷者を前に一歩を踏み出した彼の信念や覚悟をどうリアリティを持って表現するのか。本物のデュナンの気持ちに一歩でも近づきたい」と役になりきる決意を語ります。

宝塚歌劇団雪組トップスター 水 夏希さん

デュナンはこの「デュナン」を実践した人物。「人間愛や博愛の精神を言葉で語るのとは簡単ですが、偽善っぽく聞こえてしまつては駄目。大勢の負傷者を前に一歩を踏み出した彼の信念や覚悟をどうリアリティを持って表現するのか。本物のデュナンの気持ちに一歩でも近づきたい」と役になりきる決意を語ります。

デュナンに一步でも近づきたい

デュナンは「人間愛や博愛の精神を言葉で語るのとは簡単ですが、偽善っぽく聞こえてしまつては駄目。大勢の負傷者を前に一歩を踏み出した彼の信念や覚悟をどうリアリティを持って表現するのか。本物のデュナンの気持ちに一歩でも近づきたい」と役になりきる決意を語ります。

Voice & クイズ 懸賞

◆献血100回目指す 芋川恵美子さん(中野市)

献血俳句コンテストの入選作品を見ました。私はあと少しで献血70回。いつまでも健康に100回を目指します。

◆デュナンの志に感動 糸長三津枝さん(山口市)

国語の教科書に載っていた「アンリー・デュナン」の志と生涯に感動したことがあります。「ソルフェリーノの夜明け」観たいです。

◆日赤の事業展開に感謝 荒木久美子さん(おおい町)

時代の変化を読み、新しい事業を展開している日赤に感謝しています。

◆小学生が献血協力 村野邦広さん(会津若松市)

小学生が献血を呼びかけているのを見て感動しました。私も協力します。

◆「Voice」と懸賞クイズの応募方法

クイズ問題①②の解答にご意見や感想を添えて、はがき、FAXまたはメールでお送り下さい。今月号の応募締め切りは2月25日(木)必着です。お名前、連絡先(住所、電話番号)を明記して下さい。なお、「Voice」にご意見を紹介させていただく際、匿名を希望される方は、その旨もご記入下さい。

2月号懸賞クイズ

問題① 献血が治療に最も多く使われる病気は?
答え □□□□(ひらがな2文字)
問題② 日赤が1月からスタートする母子保健事業を行う国は?
答え □□□□(カタカナ4文字)
ヒントは「赤十字新聞2月号」の記事の中です。

★今月号のプレゼント

赤十字広報大使の藤原紀香さんの写真集「紀香バディ! 2 リ・アル」。紀香さん直筆サイン付きで3名様様に。
〈応募先〉
郵便〒1105-8521
東京港区芝大門1-1-3
日本赤十字社企画広報室 赤十字新聞係迄
FAX 03-3437-7091
メール kohn@jrc.or.jp

1月号の懸賞クイズの答え

問題① 雪
問題② CBFPA
当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



インタビュー INTERVIEW

パキスタンで学んだ 赤十字の原点



●日赤和歌山医療センター
松近真紀 看護師

戦傷外科病院に勤務

昨年7月からパキスタン北西部のペシャワールの戦傷外科病院に派遣されていた看護師の松近真紀さんが半年間の任務を終え、このほど帰国しました。紛争が続く現地で奮闘した松近さんに、その様子や今後の抱負を聞きました。



テロの危険と隣りあわせ

戦傷外科病院は昨年2月、赤十字国際委員会(ICRC)が設立しました。パキスタンでは、昨年10月から政府軍がアフガニスタンと国境を接する北西部で対抗勢力への掃討作戦を開始。北西部ではその報復とみられる自爆テロ事件が頻発し、ペシャワールも市民が巻き添えとなること絶えない状態です。松近さん



「時間があれば常に病棟を回り患者さんに声をかけていました」

ら病院スタッフも大きなストレスがかかる状況下で勤務に当たりました。

紛争の激化を受け、同時に4、5人の負傷者が運ばれてくる日も多くなり、松近さんは病棟看護師として救護や治療に奔走しました。「病棟とはいっても施設はテント張りで、人工呼吸器もない環境です。日本では助かる患者さんも亡くなることがあり、悔しい思いをしました」

夏場は気温が40度を超え、体重が5キロ落ちるほどの体力勝負も求められました。それでも、松近さんは大きなやりがいを感じていたと言います。

「戦時救護は赤十字の原点ですし、私自身も看護師として大きな目標でした」

求められる救いの手

病院に送られてくる負傷者の中には女性や地雷に触れて両手を失った子どもも含まれていました。そして、ほとんどの負傷者は身体だけでなく、心にも深い傷を負い、中にはショックのあまり、1週間近くも喜怒哀楽を表せない人もいたそうです。

中国大地震

住宅再建に赤十字支援金

被災者から笑顔の「謝謝」



2008年5月12日に発生した中国大地震で住宅被害を受けた四川省綿竹市の被災者に、住宅再建のための赤十字支援金が09年の暮れもおし寄せられた12月末に届けられました。



「これで将来のめども立ちます」と王天福さん

綿竹市は特に被害が大きかった地区のひとつです。住宅再建支援事業は、中国の赤十字社である中国紅十字会からの支援要請に基づき、国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)が実施。同市の農村地区住民の住宅再建を支援するために再建経費の一部を現金支給したものです。

日本赤十字社では、国内で集めた救援金のうち18億6700万円をこの事業に充て、連盟へ資金を提供。市内7つの鎮(町)の被災農民1万6577世帯が日本からの支援金を受け取りました。

の支援は来ないのでは」との不安も広がったようですが、最終的には無事支援が届き、「赤十字は、やはり私たちの味方だった」「世界の人々の善意が赤十字を通じて私たちの手元に直接届くなんて」とその喜びを味わっています。

支援金は地域の農村信用金庫に開設された被災者各世帯の口座に振り込まれ、各支店では資金が届いたかどうかを確認する被災者たちで長い行列ができました。

地元の信用金庫で1万元(約14万円)を受け取った綿竹市九龍鎮の王天福さんは、震災で自宅が崩壊した被災者の一人です。

「自宅の再建に7万5000元が必要だが、自己資金や政府からの再建支援を合わせてもカバーできず、銀行から2万元を借金しなければならなかった。私たち農民に現金収入は少なく、今後の返済が心配だったが、赤十字支援金のおかげで、将来の返済にある程度めどが立った。日本の皆さん、本当にありがとうございます」と感謝を述べていました。



赤十字支援金を受け取るために並ぶ被災者

生活再建に光

当初は09年前半に配付する予定でしたが、受益者選定の基準作りと地元から提出された受益者リストの正誤確認作業が非常に難航。予定より半年余り遅れての配付となりました。そのため被災者の間では一時、「赤十字



松近さんは、彼らを少しでも励まそうと、現地の言葉で話しかけようと思いましたが、入院中の子どもにあいさつや簡単な会話を教わり、患者さんに毎日語りかけたのです。

「そうすると、次第に心を開いてくれるようになり、痛み具合も聞き取れるようになっていきました」

松近さんは、現地スタッフの看護師を指導する役割もありましたが、こうした患者へ優しく接する姿勢が共感を生んだようです。

「最初の数カ月には率先して動きましたが、最後の段階に入ると、多忙時や緊急時以外は現地スタッフをサポートすれば大丈夫でした」

テロの危険のために外出もできず、病院と住んでいた寮を往復する日々。日本を発つ時には想像もしなかった状況で任務は終わりました。それでも、松近さんは「また戦時救護に向かいたい」と言い切ります。なぜ、そう思えるのでしょうか。

「紛争地域に暮らす人たちは、危険にさらされて思うような援助を受けられません。だから、自分たちは疎外されていると強く感じています」

このことを今回の経験で知ることができたと言います。「そうした人たちの思いに対し、外国人である私が傷ついた人を救う手助けをすることが彼らを勇気づけられると信じているのです」

世界の日赤駐在員番外報告 ハッピー・ニュー・イヤー

レゲエとビールで乾杯!

ジンバブエ(アフリカ南部)

ひ たすら飲んで、踊って歌いまくるジンバブエの若者たちの新年の迎え方です。

大晦日の夜、低所得者層が住む地域では、スピーカーが割れんばかりの大音量で「レゲエの神様」ボブ・マーレーの曲が流されます。それに合わせて、ビール瓶片手の若者が街に繰り出し、踊り歌いながら新年を祝います。

経済が上向いてきたためか、密造された地ビールではなく、輸入された瓶ビールがクール!な若者のステータスになっていました。(ジンバブエ 林泰史)

360度の全景花火でお祝い

ロッテルダム(オランダ)



ロッテルダムの花火は豪華けんらんなのです

大 晦日の夜、ヨーロッパ第一の貿易港であるオランダのロッテルダムでは、爆竹が鳴り響き、まるで中国の旧正月のような騒ぎとなります。

圧巻は午前零時から催される花火ショー。街の数十カ所から一斉に「本気」の花火が打ち上げられます。終了まで10分ほどですが、360度見渡す限りの打ち上げ花火に囲まれる華やかさは、日本の「わび・さび」の対極かも。うーん、日本人とは美的感覚が違うなあー。

(ジュネーブ 佐藤展章)